

かがやく

第 2 号

平成8年3月

題 字：入岡市長
企画編集：生涯学習情報紙編集委員
発 行：入岡市教育委員会社会教育課



二本木写友会 竹島栄治氏撮影

ざっくばらん **皆** さんの声

公民館の文化祭に自分の書道が展示されて嬉しい。家族みんなで見にいきました。

10歳代女性（仏子） 岩崎さん

いつ、どこで、いくらで、どんな活動があるか知りたい。

20歳代男性（下藤沢） 戸沢さん

ボランティア活動に関心があるので、その内容が分かるような情報を知りたい。

20歳代女性（黒須） 多比良さん

何か始めたいと思って公民館の文化祭に来て見て、ツールペイントをやってみようと思った。

20歳代女性（野田） 横田さん

近隣四市の図書館の相互利用が可能になったのに伴い、他市の公民館事業にも参加できるようにしてほしい。

30歳代女性（黒須） 窪寺さん

地元の公民館のみならず、他地域の公民館の情報も知りたい。

30歳代女性（黒須） 中平さん

働く世代が公民館行事に参加しやすいように日程等の配慮をし

て欲しい。また、子供からお年寄りまで参加・交流できるような行事を実施してください。

30歳代男性（新久） 吉川さん

講演会等の開催時、子供を預けるのが大変、保育室があったら。

30歳代女性（新光） 畑さん

入岡市に住んで15年、以前は腰掛けの地と思っていたが、サークルで野の花を暮らしの中にとりいれ、本当の故郷となった。

40歳代女性（小谷田） 和田さん

図書館は毎週月曜日、各月末日の整理日等、休館日が多すぎるので、交代制勤務など工夫して休館日を減らして欲しい。

40歳代女性（小谷田） 中台さん

公民館への道筋が分かりにくいので、道路表示をして欲しい。

40歳代女性（藤沢） 長岡さん

公民館で盆栽の会に入って10年になる。自分勝手な行き方ではなく意見の出し合いがあり情報交換ができ、楽しい。

70歳代男性（野田） 三枝さん

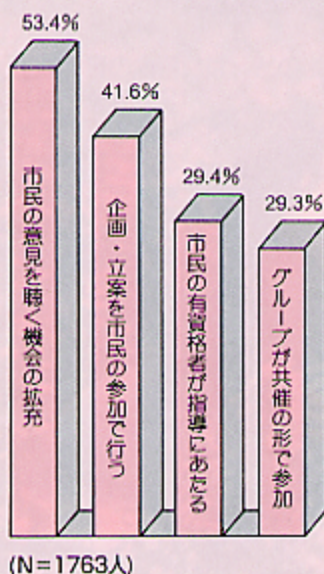
働く世代が公民館行事に参加しやすいように日程等の配慮をし

70歳代男性（野田） 三枝さん

今後の公民館運営

生涯学習をすすめるうえで公民館運営に望むことは

- ◆利用方法や運営方法に市民の意見を聴く機会の拡充
- ◆講座、教室等の開設の企画立案を市民参加で行う



(N=1763人)



(入間市生涯学習に関する市民意識調査報告書より)

指導者のレベルアップを含めた講座内容の充実をのぞみます

私たちの話を聞いて



使用開始

10分前くらいには「カギ」は渡して



ルールがあるのを
ご存じですね?

公民館はみんなが利用するものですから使用後はきちんと清掃して次の方に渡してほしい



公民館運営に関する意見・要望

公民館だよりも自分の住んでいる所しか入ってこないため、他の公民館の活動が分らなくて残念
全体の活動が一目でわかれば



生涯学習を進める基本は、地域住民の一人ひとりが自主的、自覚的に参加、運営するシステムを用意することだと思う。地域住民を主人公とした参加と運営の公民館活動がのぞまれる

人生、いつまでも挑戦と好奇心です

斉藤ノブさん
(80歳・下藤沢在住)

夫の伝三さんが昭和17年、29歳の若さで戦死、短い結婚生活の後、乳飲み子を抱えてのどん底生活を生き抜いてきたとは感じさせない、小柄な明るいおばあちゃんというのが第一印象。「おとしは？」と尋ねると、「年齢を忘れるような忙しい毎日ですがそろそろ80歳」とのこと。



昭和48年に始まった県政モニターに応募し、数々の提言、また、入間市遺族会役員を務めるなど、高齢者を感じさせない積極的な行動力に舌を巻く。

「80歳になっても知らないことばかり。まだまだ勉強もしたいし、活動もしたいです。好奇心はますます旺盛でいつも20歳のころのつもりです。」と語るノブさんの挑戦は、まだまだ続く。

人の目は少女のように輝く。また、昭和56年に藤沢公民館で実施した「はり絵同好会」を結成、「風景や花等を写生し、和紙を重ね合わせて作品を作り上げていくはり絵には、創作の喜びがあります。」と語り、「書道は厳しい挑戦の中に進歩の喜びがあり、はり絵には親しい仲間達の楽しい語りがあります。」と何事も自分のものに取り込んでしまう人生の達人。

絵画・彫刻
陶芸・写真

外国語

園芸・盆栽

33.6%

豊かにする

6%

老後

33人

にするため

理由)

が



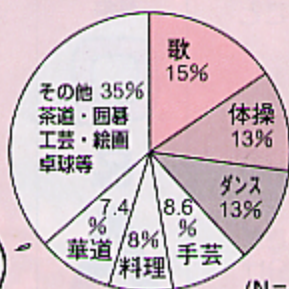
しらべて みました 公民館の 利用に ついて!

市民が生涯学習の場として
もっとも利用している公民館
にスポットをあて、
平成6年度に実施した意識調
査の結果と比較しながら、
公民館の利用状況、
グループサークルの数、学習
内容や目的、今後の公民館運
営に関する内容などについて、
市民や職員の声を取材しまし
た。

公民館の利用状況

公民館活動のベスト3

歌 体操 ダンス



(N=408人サークル)



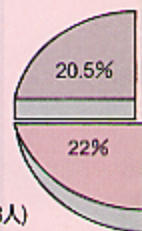
なぜか…意識調査の結果
と活動はちがうなあ

学びたいものは

1位
2位
3位

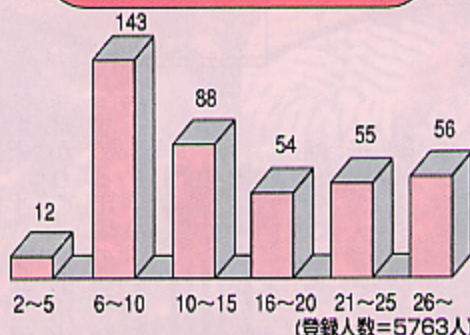


■ 絵画・彫刻
陶芸・写真
■ 外国語
■ 園芸・盆栽



(N=1763人)

何人ぐらいのグループで



(登録人数=5763人)

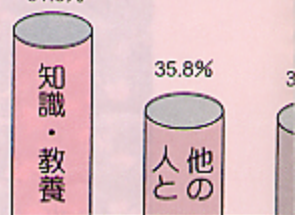
【グループ人数 (人)】

◆全体35%は、10人以内の比較的小人数で利用していることが分かった。
(公民館11館よりの調査データより)
データ収集日平成7年

学習の目的

1位 知識や教養を高め、趣味を

61.9%



(N=1763)

■ 知識や教養を高め、趣味を豊かにする
■ 他の人と親睦を深め、友人を得る
■ 老後の人生を豊かにする

(入間市生涯学習に関する市民意識調査報告書より)
データ収集日平成6年

「知らない方から、心の優しい
「花のない街、花のない婚家が
寂しくて、土いじりが好きな
でプランターにいろいろな花を
植えたのが始まりです。」
太陽に向かって咲くヒマワリ
さんのように、明るく可愛い斉
藤さん。

「花壇作りのきっかけは」
「花のない街、花のない婚家が
寂しくて、土いじりが好きな
でプランターにいろいろな花を
植えたのが始まりです。」
太陽に向かって咲くヒマワリ
さんのように、明るく可愛い斉
藤さん。



花は 皆のやすらぎ

斉藤美代子さん
(扇町屋在住)

開口一番、「窓一面が垣根の
ように、びっしりと花を咲かせ
るコツは何ですか。」
「上に向かって咲くペチュニア
と、下に向かって咲くサフィニ
アを、上手に組み合
せることで、病気が
でないために雨にあ
てないことです。」

扇町屋商店街で、
春から秋にかけて人
々の心をなごませて
咲き乱れる花々のお
宅をご存じですか。

大変な努力をしているのも、花
が可愛いからとか。

「私は見切り品の苗
を買って咲かせるの
が好き、そんなのを
買ったときは、ラッ
キーなの。」
捨てられそうな苗も、
愛の息吹があれば大輪の花を咲
かせることができるかと強く感じ
ました。

「斉藤さんの花壇作
りを見て、多くの方
が興味を持ち始めた
ようですよ。」

「知らない方から、心の優しい
「花のない街、花のない婚家が
寂しくて、土いじりが好きな
でプランターにいろいろな花を
植えたのが始まりです。」
太陽に向かって咲くヒマワリ
さんのように、明るく可愛い斉
藤さん。

「知らない方から、心の優しい
「花のない街、花のない婚家が
寂しくて、土いじりが好きな
でプランターにいろいろな花を
植えたのが始まりです。」
太陽に向かって咲くヒマワリ
さんのように、明るく可愛い斉
藤さん。



生涯 Q & A 学習

Q1 いま、なぜ、生涯学習なのですか？

A 人生80年時代を迎え、また、大きく変化する社会に対応するため、社会人となっても、わたしたち一人ひとりが、常に新たな知識や技術をすすんで習得することが必要になっています。

つまり、自分らしく、より豊かに、充実した人生を送るために生涯学習に取り組むことが大切なのです。

Q2 生涯学習の内容には、どのようなものがありますか？

A 学習内容には、多様な区別のしかたがあります。大体、次のような形で分けることができます。

■趣味関連
書道・美術・陶芸・園芸・華道・茶道・舞踊など

■一般教養関連

自然・科学・文学・外国語・歴史・健康・スポーツ・生活文化など

■実務・資格関連

パソコン・ワープロ・英検や最先端の技術などの資格取得および研究など

■その他

人権問題・消費者問題・高齢化社会・ボランティア・福祉・国際交流など

Q3 生涯学習は、どこで行うことができますか？

A 地域の公民館・図書館・博物館・体育館・勤労福祉センター・老人福祉センターおよび、青年の家などの施設を利用して活動できます。案内やパンフレットがありますので、自分にあったものを探してみてください。また、「市報いるま」にも、生涯学習情報がいっぱいあります。

こんな話 どんな話

● いるま生涯学習

フェスティバル盛大に開催

「いきいき・ふれあい・語り合い」をテーマに、昨年10月1日、生涯学習としては初めてのフェスティバルが、産業文化センターで開催されました。

これは、市および市教育委員会と、平成7年5月に発足したばかりの「入間市生涯学習をすすめる市民の会」の共催による

もので、生涯学習活動の奨励と理解を深めることを目的とした手づくりの大会でした。

各階の会議室に設けられた交流広場では、五十一団体および個人のバラエティに富んだ作品展示、のり巻き実演、コンピュータによる生涯学習適性診断など、趣向をこらした学習成果の発表に関心が寄せられました。

なお、今年のフェスティバルは、12月1日に市制施行30周年記念事業の一環として開催が予定されています。

● 市民公募によりシンボルマークが決定



作者は、東町の瀬野敏春氏で、「広範囲な生涯学習の芽が輝きある目標に向かって、豊かな花を咲かせること」をイメージしています。

なお、このシンボルマークは生涯学習推進のために、積極的に活用されます。

情報 ひろば

創刊号のさっくばらんの中で「近隣の大学とタイアップして公開講座を開いてほしい」との貴重な意見が、太田さんから寄せられました。

大学等の公開講座は、生涯学習を進める上で極めて大切なテーマであり、現在、地域への学校開放の一環として、入間市でも実施されています。

市内および近隣に所在する大妻女子大学、武蔵野音楽大学、東京家政大学、駿河台大学、早

稲田大学でも、夏休みなどの時期に大学側が独自で講座内容を編成した公開講座に、多くの市民が参加しています。

今後は、市民の学習要求が反映された身近な経済、環境等の地域課題や市民の生活課題に関係の深いテーマについて、太田さんが提案されているように、市と大学側とが連携(タイアップ)して講座内容を編成することが必要になっています。

今後、行政の検討課題として、その実現に前向きに取り組んでいく必要があります。



創刊号が、昨年9月に発行されて以来多くのみなさんから感想や温かい激励のこぼれを頂き、力づけられました。本当にありがとうございます。

第2号では、生涯学習の活動の拠点である「公民館」にスポットをあて、特集記事を組んでみました。ぜひ、ご感想をお寄せください。

生涯学習情報紙「かがやく」についてのご意見、ご希望や生涯学習に関する相談は、最寄りの公民館や市役所社会教育課生涯学習担当にご連絡ください。

六四一―二二―内線四二二三まで